



カトリック水戸教会 会報 8月10日号

サグラダ ファミリア

Sagrada Familia — 聖家族 —

2025年8月10日発行

〒310-0063 水戸市五軒町2-4-37

Tel:(029)221-3976/Fax.226-7661

マリアは永遠に私たちの母です。

2013年以降、聖母マリアの被昇天の祭日は、司祭としての私の人生にとって特別な意味を持つようになりました。その年の8月15日、私は同じ修道会に属する4人の仲間と共に司祭として叙階されたからです。それ以来、聖母マリアは、特に司祭としての奉仕の中で、私の人生のさまざまな面において霊的なインスピレーションを与え続けてくださっています。

毎年、8月15日が近づくたびに、私はあの日の恵みに心を新たにさせられます。聖母の被昇天は、私たちの信仰の大いなる神秘であると同時に、すべての人にとって希望のしるしでもあります。身体と魂ともに天に上げられたマリアの姿は、私たち一人ひとりも神と共に永遠のいのちを分かち合うように招かれていることを思い起こさせてくれます。マリアの生涯は、謙遜な従順、深い信仰、そして喜びに満ちた神への献身の模範です。

マリアのうちに、私たちは神を全幅の信頼をもって信じることを意味を見いだします。彼女はキリストをこの世にお迎えし、どんな困難の中にあっても信仰を守り通しました。人々が離れていった十字架のそばにも、彼女は立ち続けたのです。司祭としての務めが重く感じられるとき、私はしばしばマリアに目を向け、奉仕の力を祈り求めます。彼女の静かな存在は、私に忍耐と慈しみ、そして祈り

に忠実であることの大切さを教えてくれます。

この祭日は、私たちの真の故郷が天にあることを思い出させてくれます。聖母の被昇天は、単にマリアの栄光だけではなく、神が私たちすべてに望んでおられる未来の約束でもあります。一時的なものや表面的なものに心を奪われがちなこの世の中で、私たちの目を永遠へと向け直すようにと招いています。それは日々の生活の中でも、心を高く掲げて生きるよう挑戦を促すものです。

どうか皆さんもこの祝日を敬虔にお祝いください。ミサにあずかり、ロザリオの祈りを唱え、マリアが皆さんが抱える喜びや悲しみをともに歩んでくださるよう願ってください。マリアは私にとってそうであるように、皆さんにとっても母なる存在となってくださるはずです。マリアの中に、私たちは聖性の模範だけでなく、神への旅路をともに歩む伴侶を見いだすことができます。

天にあげられた祝福されたおとめマリアが、私たちの教会共同体、家族、そしてそれぞれの召命のために取り次いでくださいますように。神への「はい」というマリアの答が、信仰と愛をもって御子に従おうとする私たちの生活の中にも響き続けますように。

主任司祭 ペトルス アド・ベララウエ神父

【典礼部だより】 8月の典礼暦から ～海の星・平和旬間～



この写真は岩手県大槌（おおつち）町にあるビジネスホテルです。屋上に聖母マリア像（矢印）が建っているのが分かるでしょうか。この聖母マリア像は、ホテルの正面ではなく、その裏手に広がる大槌の海を見つめています。

あの3月11日、三陸の中ほどに位置する大槌町は津波とそれに伴う火災で大きな被害を受け、未だ行方不明の方が400人以上います。

実はこのホテルのオーナーさんご夫妻は町でただ2人のカトリック信者で、ホテルを再建するにあたって「マリア様は『海の星』だもの」と、行方不明の方々が帰ってくるための目印・導きとなるように聖母マリア像を建てたのだといいます。

わたしたちも「♪あめのきさき 天の門
♪海の星と 輝きます」と歌うように、伝統的にカトリック教会ではマリア様を指すことばとして「海の星」（ラテン語でStella Maris（ステラ・マリス））を使ってきました。

た。このことばは標準版のラテン語訳聖書を成立させた聖ヒエロニムス（347ころ～420）の著作によるものだと言われていますが、あるいはその前から「教会にとっては信仰と愛の模範」（『カトリック教会のカテキズム』967項）であり「数々の取り次ぎをもって、永遠の救いのたまものをわたしたちに得させることを続けられ」（同969項）ておられる聖母マリアを航海の導きの星、特に船の位置・針路を知るために重要な北極星になぞらえることは行われていたかもしれません。

聖母被昇天の日である8月15日は、1549年に聖フランシスコ・ザビエルが日本へ到達した日でもあります。長い航海の中で「海の星」の導きを実感したであろう彼は、日本を聖母マリアに奉献しています。

そして8月15日は、日本が戦争という嵐の大洋から終戦という岸边にたどり着いた日でもあります。そのため日本のカトリック教会は8月6日・主の変容の祝日から聖母被昇天までの10日間を「平和旬間」としています。

日々のニュースを見れば、戦争という嵐は少しも治まってはいないことが分かります。世界はまだ、嵐の大洋のままです。その中で人類が難破してしまわないように、「海の星」の導きを祈る旬間にしたいと思います。

典礼部／〇〇〇〇

監修：ルスニ神父・シスター今田

【教会案内①】

□カトリック松が峰教会



カトリック松が峰教会は、荘厳なステンドグラスやアーチ型の天井が美しく、訪れる人々に静かな祈りの空間を提供しています。現在もミサや洗礼、結婚式、地域の集いなど造られたロマネスク様式の建物が特徴で、国の登録有形文化財にも指定されています。

みこころ聖歌隊の活動について、隊長の
満仲さんにインタビューさせていただきました。
（質問は太字にて表記）

な合唱曲も取り入れ、僅かながら活動に幅を
持たせています。

§ みこころ聖歌隊は結成から何年になりましたか？

2018年、水戸教会と那珂教会との合同で正
式に発足しました。前段階として2016年、さ
いたま教区の合唱フェスティバルで水戸・那
珂・つくば教会の有志が合同合唱を行ったこ
とがきっかけです。当時司牧されていたドネ
ガン神父様のご勧奨のもと、結成以来、互選
にて隊長は私(○○)が務めさせていただき、
約40名が登録し、常時20名弱が参加していま
す。

§ 聖歌隊の活動方針を教えてください。

基本理念は「祈りに対する賛美」であり、
歌唱そのものが祈りの手段と捉えています。
特に暗譜による歌唱は、歌詞の意味を深く理
解し、それを体得する上で大切ではないかと
思っています。そして、会衆の祈りの助けと
なり共に主を賛美することができることを
念願いたします。

**§ これまでの活動内容についてお聞かせく
ださい。**

主にミサ曲や聖歌の歌唱に力点を置いて
います。2018年には水戸市の合唱祭にも参
加。主日のミサ、クリスマスイベント、葬儀
などでもご奉仕してきました。時には、「家
族の日」向けなどにミサ曲・聖歌以外の著名

§ 今後の課題を教えてください。

メンバーの高齢化に伴う若返りが挙げら
れます。現役を離れたなど歌唱活動の時間確
保可能な新規メンバーを募集しており、特に
男性や外国籍の方々のご参加も強く期待し
ます。英語や多言語での歌唱も視野に入れ、
水戸教会ミサ参加者への直接の呼びかけも
思案中です。

**§ 最後に水戸教会の皆さんにひと言お願い
いたします。**

引き続き聖歌隊へのご理解とご鞭撻をお
願いいたします。どうぞ、関心のある方や
若い世代の皆様のご参加をいただきたくお
待ちいたします。

※通常の練習は、毎月2回（隔週の日曜日）に
那珂教会と水戸教会で行っています。（8月は
お休みです。）

§ ありがとうございました。



聞き手／○○○○

【活動部会の活動内容】～総務部～

水戸教会の信者会には、4つの活動部会(専門委員会)があります。それは、祭儀・総務・渉外・財務です。そのうち、総務専門委員会には、総務部・広報部・福祉部があります。今回は特に、総務部の活動内容についてご紹介いたします。

総務の仕事は『何でも屋』です。教会委員会から地区会への連絡事項のまとめ、掃除当番の確認や大掃除の準備、パーティーの手配、

ダミアンルーム(図書室)の整理、信徒会館・センターの台所やトイレの点検、ホーリーコーナー(売店)の品ぞろえ、ミサ後のコーヒー献金の取りまとめなど枚挙にいとまがありません。

慢性的に人手不足ですが、ホーリーコーナー、ミサ後のコーヒー・飲み物の準備、ダミアンルームのお手伝いが必要です。ご協力できる方いらっしゃいませんか？

総務専門委員会／〇〇〇〇

【勉強会の経過報告】

復活祭後に始まった第一。第三金曜日10:00のミサ後の集まりは、勉強ではあります。『「信仰の世界」へのエクソダス』という本を、神との出会いに向かうガイドブックと

して読んでいます。テキストではなくてガイドブックでも、信仰を別の方向からしかりと固めるという感じで聖書を通して分かりやすく語られていますので自然に旧約聖書を読むことになります。今のメンバーは信者としての年数が多い方ですので、新しい事柄に出会うというよりも、信仰を別の方向からしかりと固めるという感じで聖書を通して分かりやすく語られていますので自然に旧約聖書を読むことになります。ご参加をお待ちしています。

シスター今田

【教会案内②】

□カトリック太田教会



カトリック太田教会(聖クララ教会)は群馬県太田市にあり、祈りと奉仕を大切にしながら、多文化交流の場として籍の信徒が集う国際的な共同体です。日本語、英語、ポルトガル語、ベトナム語など多言語でミサが行われ、地域に開かれた教会として知られてい

【編集後記】

約4カ月ぶりに4ページ版のサグラダ・ファミリアを発行いたしました。ご存じのとおり2ページ版のサグラダ・ファミリアは約2週間のペースで、出来る限り最新の情報をお伝えしております。

4ページ版には、ルスニ神父様の巻頭言を掲載させていただくとともに、典礼部だよりに加えて、皆様へのインタビュー記事等により、皆様の教会活動に

より近い情報発信を目指していく所存です。

「情報発信はまずサグラダ・ファミリアから」との認識を皆様にお持ちいただけるよう活動してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

また、ご意見・ご要望は水戸教会(広報部)メールアドレス(info@catholic-mito.com)までお寄せ下さい。よろしくお願いいたします。

広報部／〇〇〇〇

サグラダ ファミリア

Sagrada Familia
8月10日号

発行日
8月10日(日)

発行所
水戸教会広報部
メールアドレス
Info@catholic-mito.com
広報部サイト
<https://catholic-mito.com/>

編集
〇〇〇〇